



読書会「近現代史」

✧ 生まれ ✧

近現代史に関心のある仲間が集まって、2002年8月にスタートした読書会です。当初はテキスト名または時代名を会の名前としていましたが、2020年6月から“近現代史”としました。

✧ 使用テキスト ✧

近現代史の読書会は司馬遼太郎の『この国のかたち』から始まりました。このテキストでは終了まで6年余りを要しました。その後下のような変遷を辿っており、2025年1月から9冊目のテキストを開始しました。テキスト選定は会員から案を出し合い、皆で検討し決めています。表のようにそれぞれ特徴ある視点を持つ著者のテキストを選び、多様な見方・考え方を学ぶようにしています。

全般俯瞰

開始年月	テキスト	著者	出版社
2002. 08	この国のかたち（1～6）	司馬 遼太郎	文春文庫

近現代の通史

2009. 04	一外交官の見た明治維新（上下）	アーネスト・サトウ	岩波文庫
2012. 08	明治天皇（1～4）	ドナルド・キーン	新潮文庫
2018. 02	国際化時代「大正日本」	櫻井 良樹	吉川弘文館
2018. 12	昭和史 1926－1945	半藤 一利	平凡社
2020. 09	占領と改革	雨宮 昭一	岩波新書

疑問や課題の深堀

2022. 07	戦争の日本近現代史	加藤 陽子	講談社現代新書
2024. 02	戦争の近現代史	保阪 正康	幻冬舎新書
2025. 01	日ソ戦争	麻田 雅文	中公新書

✧ PR ✧

近現代史は学校で余り学ばなかったケースが多いと思われます。改めて振り返ることにより新しい知識や学びが得られます。様々な考え方の方が参加することにより、気づかなかった解釈や、知らなかった知識も得られます。また会員で議論し意見交換する中でお互いの理解や親交が深まります。

現在のテキストは初版が2024. 4と新しく、読売新聞（2024. 9. 1）・朝日新聞（2024. 11. 23）に書評が掲載されていました。